第一席

コロナで思う私の茶道観

徳島県立海部高等学校三年（徳島県）
丸本　佑理子

現在コロナ禍で三密を避けなければいけないこと、道具の共有ができないことや飲食に関してとても厳しいルールが決められている世の中。私達が毎年楽しみにしている茶道部交流会が開催されず、また学校の文化祭で毎年多くの先生方・保護者や生徒を招いている茶会も今年は開催できませんでした。茶道にふれる時間がとても少なく不安を覚えた日々でした。今できることはズームなどを使って多くの方と茶道についての意見交換や海外の方には魅力を発信することだと思いました。次に、コロナ禍で茶道について知らなかったことを深く学べました。茶道の先生の自宅の茶室に伺い、別世界に来たようだと感じました。なぜなら茶室の雰囲気やお香の香りが漂い庭園には緑が多く存在し、差し込む日光の力だけで茶室でお稽古ができたからです。そこでたくさんの新しい発見をしました。例えば普段のお稽古で使用しない香道のお道具です。その時に初めて香道を知り自分の体や心を清めることができました。他には茶室のふすまの出入りの仕方、一年中同じ道具を使うのではなく、お棗や茶碗や掛け軸などは季節によって異なる絵柄にすることや、その季節に対応する意味の物にすることを学び、日本人特有の心配りだと思いました。

私が日本の伝統文化を代表する「美」である茶道を知ったのは幼稚園の頃でした。大きなホールに美しい毛氈が敷かれ、その上で正座をしてお干菓子とお抹茶をいただき、日本にはこのようなものがあるということを知りました。そして中学校と高校では茶道部に所属しました。時が経つにつれて茶道に関してより深く学びました。茶道を海外の方に伝えてみたいと思い、さらに私は英語に興味があり高校一年生の頃はカナダに留学をしました。カナダで学んだことは海外の方が茶道について認知されていなかったことです。私は茶道のことをこう伝えました。「茶道とは日本文化である。作法がたくさんある。静かな空間でお客様に、もてなすこと。京都で茶道が始まった」と少し話した所、たくさんの方が茶道に興味を持ってくれました。私はとても嬉しく、もっとたくさんの方に茶道を知っていただきたいと強く感じました。

このような魅力をたくさん持つ茶道は私にとってかけがえのないものになっています。茶道は自分と周りに居る方の心を潤してくれます。私は茶道に関する好きな言葉があ

ります。それは「精神統一。自然の光を取り込んでお点前をする。お点前の時の一つ一つ大切な意味を持つ所作。一服のお抹茶に込められた亭主が点てた抹茶。畳を歩く足音。自分と相手の心が通じる時間。ただ客人にお抹茶や和菓子をもてなすだけではなく生花や掛け軸、所作などを拝見し、よりよい時間を過ごしていただく」と今まで茶道をしてきて感じた言葉です。私は学校や校外だけではなく、家でも茶道を楽しむことができると思います。休日には家族に和菓子とお抹茶を振る舞います。すると、とても喜んでくれます。よく家族は、「とても落ち着くね。リフレッシュが出来た」と言ってくれます。私は今、高校三年生で日々大きな壁に立ち向かっています。そんな中、心の支えとなっているのは茶道です。

私は現在、初級の資格を取得しており、これから先もっと深く茶道の作法やお点前や歴史について学んでいきます。留学経験から、海外の方は茶道についてあまり知らないと分かったので異文化社会を学ぶ為、大学に進学し海外の友達を作り茶道の魅力を伝えていきたいです。将来は、外国で海外の方に茶道の作法やお点前、魅力を詳しく伝えたいと思います。これからも、上級の資格取得を目標に精進していきます。